

⑧若林市民センター・児童館
若林3丁目15-20
平成3年(1991)4月、地域における自主活動、生涯学習の拠点施設として開設。地域と連携した「ふれあいまつり、防災講座、歴史講座、市民企画講座、老壮大学」等幅広い年代を対象とする各種事業を行っている。

⑨「御休場」記念碑
若林3丁目15-20
伊達政宗公が開墾状況を視察に訪れた際、休憩した所を「御休場」と呼んだ。大正11年(1922)にこの地域の名士が現若林5丁目8番地に建立。その後、若林市民センター玄関前に移設。記念碑刻銘は「昔伊達公此ノ地ニ出張シ自開墾ヲ監督セシ処ナリ以テ此地ヲ御休場ト云ウ大泉多蔵建立書」

⑩仙台市立若林小学校
若林4丁目3-1
昭和29年(1954)仙台市立南材木町小学校より分離開校。開校時の児童数は716名。最多児童数の年は昭和51年(1976)で、1265名、その後は減少傾向にある。平成29年は304名と少ない。特長としてはハワイの小学校と姉妹校を結び交流している。

⑪仙台市若林市営住宅
若林4丁目2
昭和55年(1980)に竣工。全戸数は120戸。階数は4階と5階。タイプは3DK。管理運営は公益財団法人仙台市建設公社となっている。

⑫国道4号仙台バイパス
若林5丁目
若林5丁目を通る「仙台市竈ノ瀬～仙台市苦竹」の区間の供用開始は昭和41年(1966)、全線供用開始は昭和49年(1974)となっている。なお、道路区間は岩沼市梶橋から仙台市七北田までである。

⑬「まち」の中の地図看板
若林6丁目3-10
地図看板は杜の都信用金庫六郷支店裏に設置してある。設置年は定かでない。だが、雪印乳業(株)仙台工場や「せんしん(仙台信用金庫)」が描かれているので20年以上前に設置されたものと思われる。

⑭バス停「若林7丁目」
若林7丁目7-5
若林7丁目のバス停は、以前「桃畑」という名称であった。この辺一帯は桃畑であったからである。現在の住居表示になる以前は、御休場、中河原と呼ばれていた。当時の道路脇には、まだ畑があった。今は、宅地化が進み、もう畑は見当たらない。

コラム

若林の50年を振り返ってみて

50年前といえばグループサウンズが全盛期の時代で、まだ若林学区にも雪印乳業(株)をはじめ多くの工場がありました。50年たった今、工場はなくなりました。

この地域には、あまりお店が定着しないと言われていて、50年前からのお店や、ガソリンスタンドはほとんど残っていません。長崎屋とて例外ではありませんでした。こうした現象は、この地域だけでなく、他の地域にも共通しているのではないかと思います。車社会になり、郊外の安い大型店舗へ出かけて、一度に大量の買い物をする時代へと変わっていきました。しかし、最近になってこの地域にも高齢化の波が押し寄せ「近くで買い物を」という声が多くなったことや、工場跡地の活用と言うこともあり、大型スーパーが出来賑わいを見せています。また、コンビニやレストランもこの地域に定着し、人々に利用されるようになりました。

広瀬川も護岸工事、河川敷の活用(野球場、ウォーキングコース)等変わってきています。しかし、春にはオオガイののぼり、夏にはアユを釣る人々が、秋にはたくさんの鮭が遡上する様子を広瀬橋から見るすることができます。こうした光景は殆ど変わっていません。

これから、さらに50年たったら、この地域はどう変わるのでしょうか。そうしたことを考えながら、この地図を見ていただきたいと思います。

雑記

私たちは若林市民センター主催事業「市民企画会議」に集まったメンバーです。平成26年に「若歴会」を結成し、地域の歴史を学んできました。

今回は50年前に焦点を当てましたが、私たちはそれ以前の事も地図や資料を集め、話を聞き歩いてみました。資料は乏しかったのですが、色々な方の話から何とかまとめる事ができました。江戸時代は小泉村の一部で飢饉の時は施粥が行われ、他領からも人が集まり、亡くなった人の供養の為に地蔵尊も建立され、現在二体が残っています。明治時代は南小泉村となり、広瀬川橋下、桃源院東、五つ谷二番、御休場南といった困(字)名が付けられ、戦前は軍需工場もありました。

これからも、地域の歴史に関心を持ち、学んだことを皆様にお伝えしたいと思います。

《参考文献》

国土地理院地図 宮城県史 仙台市史 伊達治家記録 仙台郷土研究 寺社綴(宮城県公文書館)など

発行年月日：平成30年3月
編集・企画：若林市民センター主催事業
市民企画会議「仙台の今・むかし」若歴会
発行：(公財)仙台ひと・まち交流財団
仙台市若林市民センター
〒984-0826 仙台市若林区若林3丁目15-20
TEL 022-282-4541 FAX 022-282-2637

若林の50年 そして今



わたしたちのまち若林
ひとが住み道が広がり街ができ
未来へと変わりゆく若林
なつかしい裏どりの家並み
鎮守の森のやさしいささやきも残る
わたしたちの大好きな若林



「若林」の範囲：仙台市若林区若林1～7丁目

①松原公会堂
若林1丁目13-10
大正6年(1917)農家生産組合の有志が、地域の相談事や若者の修養鍛錬の集会場として開設。平成23年(2011)の東日本大震災により甚大な被害を受け使用不能となる。地域の町内会が再建を計画、平成27年(2015)12月に新公会堂を建設した。

②仙台若林一郵便局
若林1丁目13-1
昭和37年(1962)若林1丁目「酒のやまや」敷地内に「仙台若林郵便局」として開局。その後、昭和63年(1988)東側にあるマンション内に移転。平成7年(1995)に「仙台若林一郵便局」と名称を変更し、若林区南小泉梅木に基幹局の「仙台若林郵便局」を開局した。

③道標石
若林1丁目9-18
古くはこの辺一帯は畑地で、かつての農道の三叉路に建っている。建立年は文久(元)辛酉(1861)。道標石の正面に「馬頭観世音」と刻字。左面に「西ハ御城下、南ハ閑上、北ハ小泉」と刻字されている。

④旅立稲荷神社
若林2丁目1-3
永保年間(1081～1083)京都伏見稲荷神社の分霊を勧請して創建、伊達政宗が参勤時に道中の安全を祈願し「旅立明神」と称した。その後「保食神社」、「旅立稲荷神社」と改称。境内に「耳開き地藏尊」があり、台石に文化7年(1810)と刻字、天明3年(1783)の大飢饉の27回忌に建立された。

⑤松原地蔵尊
若林2丁目8
宝暦5年(1755)、天明4年(1784)の大飢饉で餓死する者が多く、悲惨な状態だったという。藩ではこのあたりに小屋がけし「かゆ」を施したが亡くなる人が後を絶たなかったという。なお、建立年は不詳である。地藏の周辺には十数基の墓石が散在していたが、平成29年(2017)の春頃に撤去された。

⑥仙台市若林西市営住宅
若林2丁目7
平成23年(2011)の東日本大震災被災者のための復興住宅として建設。平成26年(2014)3月竣工。3棟152戸。4戸は車椅子も使用できる住戸となっている。一部はペットも飼育可能。ゼライス(株)の跡地に建設された。

⑦ゼライスタウン
若林2丁目7
平成25年(2013)10月、ヨークベニマル、カワチ薬品等オープン。土地の所有者はゼライス(株)であったので「ゼライスタウン」と命名。ゼライス(株)は昭和16年(1941)宮城化学研究所として設立。ゼラチンを生産した。その後、社名を宮城化学工業(株)、ゼライス(株)と変更。平成21年(2009)多賀城市へ移転した。